

装飾古墳の保存・管理状況の実態調査の回答一覧

番号	指定名称	1. 基礎情報						2. 装飾について					
		指定年月日	所在地	発見年月日	指定面積 (㎡)	管理団体	保存管理計画		整備計画		埋葬施設の 種類	装飾の種類	場所
							有無	策定年	有無	策定年			
1	山畑横穴群	昭和 48 年 12 月 15 日	宮城 大崎市	昭和 46 年 8 月	6,592	大崎市	有	昭和 49 年	有	昭和 49 年	横穴	彩色壁画	玄室前壁・奥壁・左右側壁・天井・玄門前壁
2	中田横穴	昭和 45 年 5 月 11 日	福島 いわき市	昭和 44 年 1 月 20 日	250	いわき市	有	昭和 44 年	有	昭和 46 年 1 月	横穴	彩色壁画	後室周壁
3	清戸迫横穴	昭和 43 年 5 月 11 日	福島 双葉町	昭和 42 年 11 月 3 日	2,336	双葉町	有	平成 22 年	有	平成 22 年	横穴	彩色壁画	玄室奥壁
4	羽山横穴	昭和 49 年 12 月 23 日	福島 南相馬市	昭和 48 年 4 月 26 日	206	南相馬市	無		無		横穴	彩色壁画	玄室正面、側面、天井
5	泉崎横穴	昭和 9 年 5 月 1 日	福島 泉崎村	昭和 8 年 12 月 28 日	169	泉崎村	有	平成 20 年 3 月 31 日	無		横穴	彩色壁画	壁面・天井
6	虎塚古墳	昭和 49 年 1 月 23 日	茨城 ひたちなか市	昭和 48 年 9 月 12 日	8,391	ひたちなか市	有	昭和 52 年 2 月 3 日	有	昭和 54 年 2 月 7 日	横穴式石室	彩色壁画	奥壁 側壁 天井 床 玄門部
7	吉田古墳	平成 22 年 8 月 4 日	茨城 水戸市	大正 3 年 3 月	1,225	水戸市	無		無		横穴式石室	線刻壁画	石室奥壁
8	長柄横穴群	平成 7 年 3 月 20 日	千葉 長柄町	—	22,721	長柄町	有	平成 9 年 3 月 21 日	有	平成 13 年 3 月 20 日	横穴	線刻壁画	
9	高井田横穴	大正 11 年 3 月 8 日	大阪 柏原市	大正 6 年 10 月	35,594	柏原市	無		無		横穴	線刻壁画	玄室左右壁・奥壁・天井・玄門左右壁、羨道左右壁 等
10	水尾古墳	昭和 36 年 7 月 6 日	奈良 御所	—	349	—	有		有	平成 7 年 12 月	横穴式石室	石棺等に彫刻	冢形石棺蓋の小口の縄掛突起2箇所
11	梶山古墳	昭和 54 年 4 月 21 日	鳥取 鳥取市	昭和 53 年 7 月 3 日	1,857	—	無		有	平成 4 年 3 月	横穴式石室	彩色壁画	奥壁
12	丹花庵古墳	昭和 8 年 2 月 28 日	島根 松江市	昭和 元 年	1,919	松江市	無		無		長持形石棺	石棺等に彫刻	石棺蓋石と突帯部分
13	造山古墳第一・二・三・四・五・六古墳(造山古墳前方部上石棺)	大正 10 年 3 月 8 日	岡山 岡山市	明治以前	56,734	岡山市	無		無		長持形石棺	石棺等に彫刻	石棺の蓋
14	造山古墳第一・二・三・四・五・六古墳(千足古墳)	大正 10 年 3 月 8 日	岡山 岡山市	明治 45 年 1 月 18 日	56,734	岡山市	無		無		横穴式石室	線刻壁画	
15	丸山古墳	昭和 32 年 10 月 11 日	岡山 備前市	昭和 11 年	39,283	備前市	無		無		竪穴式石室	石棺等に彫刻	
16	有岡古墳群(宮が尾古墳)	昭和 59 年 11 月 29 日	香川 善通寺市	昭和 41 年 1 月 14 日	1,710	善通寺市	無		無		横穴式石室	線刻壁画	奥壁・側壁
17	日岡古墳	昭和 3 年 2 月 7 日	福岡 うきは市	明治 21 年	3,123	—	無		無		横穴式石室	彩色壁画	奥壁、側壁
18	珍敷塚古墳	昭和 28 年 3 月 31 日	福岡 うきは市	昭和 25 年	210	—	無		無		横穴式石室	彩色壁画	奥壁、右側壁
19	鳥船塚古墳	昭和 28 年 3 月 31 日	福岡 うきは市	昭和 25 年 3 月	32	—	無		無		横穴式石室	彩色壁画	奥壁
20	古畑古墳	昭和 28 年 3 月 31 日	福岡 うきは市	昭和 25 年 3 月	138	うきは市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	奥壁、右側壁
21	原古墳	昭和 61 年 2 月 25 日	福岡 うきは市	昭和 3 年 3 月	639	—	無		無		横穴式石室	彩色壁画	奥壁鏡石
22	重定古墳	大正 11 年 2 月 25 日	福岡 うきは市	江戸時代ごろから古くから知られていた。	1,896	うきは市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	後室奥壁、後室・前室・前庭部左右側壁
23	塚花塚古墳	大正 11 年 10 月 12 日	福岡 うきは市	明治以前	486	うきは市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	奥壁
24	古月横穴(2・6・9号墓)	昭和 7 年 10 月 19 日	福岡 鞍手町	大正 15 年 7 月	6,689	鞍手町	無		有	平成 10 年	横穴	線刻壁画・彩色壁画	玄室奥壁・左側壁、羨道部左壁、前壁
25	日輪寺古墳	大正 11 年 3 月 8 日	福岡 久留米市	明治 45 年	496	久留米市	無		無		横穴式石室	石棺等に彫刻	奥・側壁添いに立てられた石障
26	浦山古墳	昭和 26 年 6 月 9 日	福岡 久留米市	—	4,683	久留米市	無		無		横穴式石室	線刻壁画(石棺内面に赤色顔料)	石棺内部の壁面
27	下馬塚古墳	昭和 19 年 11 月 7 日	福岡 久留米市	—	502	久留米市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	石室内(前室後室側壁・奥壁・玄門)
28	田主丸古墳群(寺徳古墳)	平成 14 年 3 月 19 日	福岡 久留米市	—	499	—	無		無		横穴式石室	彩色壁画	石室内(前室後室側壁・奥壁・玄門)
29	田主丸古墳群(西館古墳)	平成 14 年 3 月 19 日	福岡 久留米市	昭和 63 年	1,811	—	無		無		横穴式石室	彩色壁画	石室内(後室奥壁・玄門前室側)
30	田主丸古墳群(中原塚古墳)	平成 14 年 3 月 19 日	福岡 久留米市	—	2,132	—	無		無		横穴式石室	彩色壁画	石室内(前室後室側壁・奥壁・玄門・羨門・羨道)
31	竹原古墳	昭和 32 年 2 月 22 日	福岡 宮若市	昭和 31 年 3 月 11 日	518	宮若市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	前室の袖石、玄室の奥壁
32	王塚古墳	昭和 12 年 6 月 15 日	福岡 桂川町	昭和 9 年 9 月 30 日	5,665	桂川町	有	昭和 51 年 3 月	有	昭和 61 年	横穴式石室	彩色壁画	複室構造横穴式石室の奥室全面、前室後壁
33	八女古墳群(弘化谷古墳)	昭和 53 年 3 月 24 日	福岡 広川町	昭和 45 年 3 月 31 日	5,721	広川町	無		有	昭和 61 年	横穴式石室	彩色壁画	石室奥壁の石屋形内壁
34	八女古墳群(石人山古墳)	昭和 53 年 3 月 24 日	福岡 広川町	昭和 11 年 3 月 25 日	14,463	広川町	無		無		竪穴式石室	石棺等に彫刻	石棺屋根型棺蓋、棺身小口外壁
35	八女古墳群(丸山塚古墳)	昭和 53 年 3 月 24 日	福岡 八女市	—	7,948	八女市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	玄室奥壁及び両側壁及び両袖石、前室両側壁
36	八女古墳群(乗場古墳)	昭和 53 年 3 月 24 日	福岡 八女市	—	2,074	八女市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	玄室奥壁及び両側壁及び両袖石、前室両側壁
37	桜京古墳	昭和 51 年 3 月 31 日	福岡 宗像市	昭和 46 年 10 月 23 日	893	—	無		予定	平成 25 年 3 月 31 日	横穴式石室	線刻壁画・彩色壁画	石室の奥壁と石屋形両柱石正面・側面
38	穴ヶ葉山古墳	昭和 14 年 9 月 7 日	福岡 上毛町	昭和 3 年 9 月 下旬	1,000	上毛町	有		有	平成 7 年 3 月 31 日	横穴式石室	線刻壁画	羨道両側壁
39	萩ノ尾古墳	昭和 36 年 4 月 5 日	福岡 大牟田	元禄 5 年 8 月	267	大牟田市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	玄室奥壁
40	五郎山古墳	昭和 24 年 7 月 13 日	福岡 筑紫野市	昭和 22 年 10 月	3,846	筑紫野市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	
41	仙道古墳	昭和 53 年 5 月 6 日	福岡 筑前町	昭和 52 年 9 月	2,283	—	無		有	平成 8 年 11 月	横穴式石室	彩色壁画	玄室奥壁、左右側壁、玄門内側
42	田代太田古墳	大正 15 年 11 月 4 日	佐賀 鳥栖市	明治初期	1,783	鳥栖市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	奥壁、玄門袖石、中室東側壁
43	西隈古墳	昭和 50 年 6 月 26 日	佐賀 佐賀市	—	946	佐賀市	無		無		横穴式石室	彩色壁画・石棺等に彫刻	棺身及び棺蓋
44	巻岐古墳群(双六古墳)	平成 21 年 2 月 12 日	長崎 巻岐市	—	28,902	巻岐市	無		無		横穴式石室	線刻壁画	
45	巻岐古墳群(対馬塚古墳)	平成 21 年 2 月 12 日	長崎 巻岐市	—	9,145	巻岐市	無		無		横穴式石室	線刻壁画	
46	巻岐古墳群(兵瀬古墳)	平成 21 年 2 月 12 日	長崎 巻岐市	—	15,208	巻岐市	無		無		横穴式石室	線刻壁画	
47	四日市横穴群(一鬼手62号)	昭和 32 年 11 月 28 日	大分 宇佐市	—	15/5680	宇佐市	無		無		横穴	彩色壁画	墓門正面の壁面
48	四日市横穴群(加賀山39号)	昭和 32 年 11 月 28 日	大分 宇佐市	—	10/5680	宇佐市	無		無		横穴	彩色壁画	墓門正面の壁面
49	四日市横穴群(加賀山40号)	昭和 32 年 11 月 28 日	大分 宇佐市	—	10/5680	宇佐市	無		無		横穴	彩色壁画	墓門正面の壁面
50	鬼塚古墳	昭和 32 年 10 月 28 日	大分 国東市	—	666	国東市	無		無		横穴式石室	線刻壁画	右奥壁、左壁腰石、右壁腰石
51	千代丸古墳	昭和 9 年 5 月 1 日	大分 大分市	大正 9 年 11 月 1 日	158	大分市	無		無		横穴式石室	線刻壁画	
52	法恩寺山古墳群(3号墳)	昭和 34 年 5 月 13 日	大分 日田市	—	8,276	日田市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	玄室奥壁、玄室右側壁、玄門、櫛石
53	穴観音古墳	昭和 8 年 2 月 28 日	大分 日田市	—	3,782	日田市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	玄室奥壁、玄室右側壁、前室左右側壁
54	ガランドヤ古墳 (1号墳)	平成 5 年 10 月 13 日	大分 日田市	—	2,997	—	無		有	平成 23 年 3 月 31 日	横穴式石室	彩色壁画	玄室奥壁、障石、玄門・前門・前室右壁
55	ガランドヤ古墳 (2号墳)	平成 5 年 10 月 13 日	大分 日田市	—	2,997	—	無		有	平成 23 年 3 月 31 日	横穴式石室	彩色壁画	玄室奥壁、玄室両側壁・玄門・前室側壁
56	鬼ノ岩屋古墳(1号墳)	昭和 32 年 11 月 28 日	大分 別府市	—	468	別府市	無		無		横穴式石室	彩色壁画	玄室壁面、前室壁面、羨道壁面
57	鬼ノ岩屋古墳(2号墳)	昭和 32 年 11 月 28 日	大分 別府市	—	1,673	別府市	無		無		横穴式石室	彩色壁画・石棺等に彫刻	玄室壁面、屍床前面
58	弁慶ヶ穴古墳	昭和 31 年 12 月 28 日	熊本 山鹿市	—	2,168	山鹿市	無		無		横穴式石室	彩色壁画、線刻壁画(浮彫)	前室壁面、羨道、羨門、玄門、玄室内石屋形小口
59	鍋田横穴	大正 11 年 10 月 12 日	熊本 山鹿市	—	11,709	山鹿市	無		有	昭和 55 年	横穴	線刻壁画(浮彫、線刻・彩色)	崖面、玄室壁面
60	チブサン・オブサン古墳(チブサン古墳)	大正 11 年 10 月 12 日	熊本 山鹿市	—	1,005	山鹿市	無		有	昭和 55 年	横穴式石室	彩色壁画、線刻壁画(線刻・彩色)	玄室内石屋形壁内側
61	大村横穴群	大正 10 年 3 月 3 日	熊本 人吉市	大正 5 年	21,005	人吉市	無		無		横穴	線刻壁画(浮彫、線刻・彩色)	崖面、羨門、玄室壁面、飾り縁
62	江田船山古墳 附 塚坊主古墳・虚空蔵塚古墳(塚坊主古墳)	昭和 26 年 6 月 9 日	熊本 和水町	—	16,168	和水町	無		無		横穴式石室	線刻壁画(線刻・彩色)	石屋形の奥壁および左右の側壁
63	石貫ナギノ横穴群	大正 10 年 3 月 3 日	熊本 玉名市	—	15,052	—	無		有	平成 4 年 3 月	横穴	線刻壁画(線刻・彩色)	横穴飾り縁、羨門、横穴墓内石屋形
64	石貫穴観音横穴	大正 10 年 3 月 3 日	熊本 玉名市	—	1,324	玉名市	無		有	平成 4 年 3 月	横穴	線刻壁画(線刻・彩色)	横穴飾り縁、横穴墓内奥壁、羨門
65	大坊古墳	昭和 52 年 2 月 17 日	熊本 玉名市	—	1,256	—	無		有	平成 4 年 3 月	横穴式石室	彩色壁画	玄室内石屋形奥壁
66	永安寺東古墳・永安寺西古墳(永安寺東古墳)	平成 4 年 12 月 15 日	熊本 玉名市	—	1,459	—	無		有	平成 4 年 3 月	横穴式石室	線刻壁画(線刻・彩色)	玄門、玄室内石屋形小口、前室側壁
67	永安寺東古墳・永安寺西古墳(永安寺西古墳)	平成 4 年 12 月 15 日	熊本 玉名市	—	1,471	—	無		有	平成 4 年	横穴式石室	線刻壁画(線刻・彩色)	玄室内石屋形奥壁、側壁、H21 彩色(船)新発見
68	釜尾古墳	大正 10 年 3 月 3 日	熊本 熊本市	明和 6 年 春	409	—	無		無		横穴式石室	彩色壁画、線刻壁画(線刻・彩色)	羨道部袖石、天井石、玄門柱石、玄室内石屋形内・外面、層石 H21 彩色(双脚輪状文)新発見
69	千金甲古墳(乙号)	大正 10 年 3 月 3 日	熊本 熊本市	—	319	熊本市	無		無		横穴式石室	線刻壁画(線刻・彩色)	玄室内石屋形
70	千金甲古墳(甲号)	大正 10 年 3 月 3 日	熊本 熊本市	—	650	熊本市	無		無		横穴式石室	線刻壁画(浮彫、線刻・彩色)	石障内壁面、仕切り石
71	塚原古墳群(石之室古墳)	昭和 51 年 12 月 27 日	熊本 熊本市	江戸時代後期	34,724	—	有	昭和 54 年	有	昭和 59 年	横穴式石室	石棺等に彫刻	冢形石棺の内面に横方向の平行線と斜格子を配する
72	井寺古墳	大正 10 年 3 月 3 日	熊本 嘉島町	安政 4 年	204	嘉島町	無		無		横穴式石室	線刻壁画(線刻・彩色)	羨門から羨道側壁および石障上面と内・外面
73	小田良古墳	昭和 54 年 10 月 23 日	熊本 宇城市	昭和 52 年	443	—	無		無		横穴式石室	線刻壁画(浮彫)	石障内面

装飾古墳の保存・管理状況の実態調査の回答一覧

(参考資料)

番号	指定名称	6. 装飾の状況について					
		劣化の認識	過去の劣化の内容	対応	現状の問題	予測される問題点	問題点に対する対策
1	山畑横穴群	無					
2	中田横穴	無					
3	清戸迫横穴	有	岩盤に含まれるマンガン成分による黒色部分の表出	県文化財課に報告し、有識者に調査を依頼	警戒区域にあるため、頻繁な点検ができない		
4	羽山横穴	無				鉄分を含む水の浸出により、色が薄く見えるようになる	壁面にしみ出る水分量のコントロール
5	泉崎横穴	有	玄室内のヒビがわずかに進行壁面にカビ・塵の固着	公開を停止、環境調査の後に修復事業を実施	メンテナンスやモニタリングにかかる予算確保が難しい	新たな保存整備策が必要となっている	維持管理にかかる費用の捻出が難しいため、補助金の創設を希望
6	虎塚古墳	有	石室内に小石が落下羨道部袖石に亀裂			温暖化によるカビ発生等	空気の汚染状況について詳細に分析を行い、除菌や洗浄などして対応
7	吉田古墳	無					
8	長柄横穴群	無					引き続き保存状況を点検する必要がある
9	高井田横穴	有	壁面の崩落や風化の進行	各種調査及び保存事業の実施、委員会の設置と検討	一部に風化等見られる	樹木の成長や苔菌の繁茂、風化の進行など	経過観察の実施により、各要因の環境の改善の再検討
10	水尾古墳	無					
11	梶山古墳	無				自然劣化による壁面の退色	経過観察の実施を行い、必要に応じて専門家の指導を仰ぐ
12	丹花庵古墳	無				現状の保存状態が継続することによる劣化	劣化の進行を止めるような設備の設置
13	造山古墳第一・二・三・四・五・六古墳(造山古墳前方部上石棺)	無			手に触れることができるため、傷つけられる可能性あり	手に触れることができるため、傷つけられる可能性あり	保存施設等を検討する必要がある
14	造山古墳第一・二・三・四・五・六古墳(千足古墳)	有	石室内の水を抜いたところ、石障が劣化していた	委員会を設置し、対策を検討	石室内への防水措置を図り、石障の保存等を講じる	石障(砂岩)の劣化を止める技術の開発	学際的な検討体制の整備
15	丸山古墳	無			75年間、石棺の状況が未確認のままである	雨水等が劣化をまたらしていないか、一抔の不安あり	今後何らかの方法で状況を確認することを考えていきたい
16	有岡古墳群(宮が尾古墳)	無					
17	日岡古墳	無			覆屋の老朽化・小動物の侵入	生物被害の進展	施設の再整備等、こまめな清掃
18	珍敷塚古墳	有	覆屋、保存庫内等にカビが発生 装飾の一部退色	カビ除去のための保存修理事業及び環境調査を実施	覆屋の老朽化	生物被害の進展	施設の再整備等、こまめな清掃
19	鳥船塚古墳	無			覆屋の老朽化、小動物等の侵入	生物被害の進展	施設の再整備等、こまめな清掃
20	古畑古墳	無			装飾自体は安定保存活用の整備は行っていない	自然環境の影響を受けやすい状況にある	保存活用のための整備が必要である
21	原古墳	無			覆屋の老朽化、小動物等の侵入	奥壁を本来の姿である石室内に戻すか否か	施設の再整備等、こまめな清掃
22	重定古墳	無			石室内への小動物等の進入	生物被害の進展	こまめな清掃
23	塚花塚古墳	無			石室内の小動物の進入等	生物被害の進展	こまめな清掃
24	古月横穴(2・6・9号墓)	有	奥壁及び左側壁部の彩色の退色及び壁面の劣化	保存整備工事により、壁面を薬剤にて強化		壁面の劣化	経過観察と壁面補強措置
25	日輪寺古墳	無			覆屋内部が乾燥しており、見学時に土埃が舞う	保存施設(覆屋)の老朽化	埃については、覆屋内部の床面の検討保存施設の修理、建替え
26	浦山古墳	無			覆屋内部が乾燥しており、見学時に土埃が舞う	保存施設(覆屋)の老朽化	埃については、覆屋内部の床面の検討保存施設の修理、建替え
27	下馬塚古墳	有	一時的・部分的なカビの発生等	発生源の石室外除去壁面もアルコールにて除去	保存室壁面からの塩の析出、保存室の老朽化	長期的には石材表面に見られる白い析出物の動向	析出物の分析・原因究明・長期的な観察
28	田主丸古墳群(寺徳古墳)	有	石室調査後、一時的にカビの発生 雨水・虫等の浸入	石室内を消毒、人の出入りを制限現在は安定している	雨水及び生物の侵入扉の老朽化	近年の極端な大雨時の雨水の影響	墳丘整備(環境の変化を検討した上で)
29	田主丸古墳群(西館古墳)	無			埋め戻されているため、内部が未確認	埋め戻しているため、内部を確認する必要がある	状況確認
30	田主丸古墳群(中原塚古墳)	有	部分的なカビの発生竹根や雨水の浸入虫等の侵入	原因となる竹根や虫の死骸を石室外に除去	保存措置が暫定的なため、根本的な対応が必要	本来的に保存環境に問題を抱えており、課題は多い	墳丘全体を含めた環境整備
31	竹原古墳	有	石室内への泥の落下の増加	文化庁等の指導の下に対応を検討中	石室内への雨水や泥の侵入、カビの発生等	雨水や泥水の浸入による環境の悪化、生物被害等	施設の再整備を現在検討中
32	王塚古墳	有	石室の損壊、雨水の侵入、カビの発生等	専門委員会の指導の下、整備事業を実施	現状では特に問題なし	温暖化の進行による対応(カビの発生等)	定期的観察による状態の把握
33	八女古墳群(弘化谷古墳)	無			現状は特に問題はなく、壁面環境も落ち着いている		
34	八女古墳群(石人山古墳)	無			石室内にコケ類・虫類が棲息温湿度も一定ではない	生物被害の発生、石材の劣化など	定期観察の継続と、再整備の検討
35	八女古墳群(丸山塚古墳)	無			埋め戻し措置により、内部の変化が確認出来ない	昆虫類の進入によるカビ発生と装飾の劣化	内部確認のための再発掘調査及び保護施設の建設
36	八女古墳群(乗場古墳)	有	壁面部分の外部において、カビの発生を確認	アルコールによるカビの除去	保護施設の老朽化による石室内部の不安定化	昆虫類の進入によるカビ発生と装飾の劣化	保護施設の改修
37	桜京古墳	無			閉塞の密閉性が低いため、雨水の流入が想定される		指導委員会の指導のもと、整備計画を策定中
38	穴ヶ葉山古墳	無			現状では特に問題なし		
39	萩ノ尾古墳	無			石材の間に竹根が繁茂羨道部天井より砂の落下	生物被害の進展、石室内環境の変化など	竹の根は切断する今後、定期的に観察し、対策方針を決める
40	五郎山古墳	有	彩色の退色 黴の発生	保存施設の設置、温湿度管理、溶液散布による殺菌	屋外温湿度計の観測ができていない	彩色の退色及びカビの発生	定期的な観察の継続、再整備の検討中
41	仙道古墳	無			石室内は特に問題なし	墳丘の崩落	定期的な観察の継続
42	田代太田古墳	有	前室を中心に装飾部分以外で、カビの発生を確認	専門家に対応を相談、指導に従ってカビを除去	現状は特に問題はなく、装飾がある中室・後室の環境は落ち着いている	墳丘上の木の根による石室の影響	石室観察および環境調査を継続して行う
43	西隈古墳	有	風雨等による土砂の流れ込み	定期的な点検・観察	線刻等に特に問題は無いが、風雨等による土砂の流入	石室内に土砂が流れ込む可能性がある	文化財審議委員による視察と問題点の把握、定期点検の実施
44	巻岐古墳群(双六古墳)	無					
45	巻岐古墳群(対馬塚古墳)	無					
46	巻岐古墳群(兵瀬古墳)	無					
47	四日市横穴群(一鬼手62号)	無			覆屋の劣化が懸念される		近い将来に改修が必要となる
48	四日市横穴群(加賀山39号)	無			覆屋の劣化が懸念される		近い将来に改修が必要となる
49	四日市横穴群(加賀山40号)	無			覆屋の劣化が懸念される		近い将来に改修が必要となる
50	鬼塚古墳	有	カビ等の発生、落書き	墳丘の修復や排水工事の実施、扉の設置	現状特に問題はないが、点検に努める必要がある	見学者による新たな線刻、毀損行為など	見学には必ず立会い、注意を喚起する
51	千代丸古墳	有	玄室入口付近に釘状の金属による落書きが認められた	玄室入口の柵の施設、見学を許可制に変更			
52	法恩寺山古墳群(3号墳)	有	カビの発生、竹の根の主体部侵食	カビについては自然消滅竹の根を除去	カビの発生が不定期に見られる		カビの経過観察を行い、必要に応じて専門家の指導を受ける
53	穴観音古墳	有	カビの発生、装飾部分の結露と白色化墳丘の崩落	環境調査や墳丘崩落の応急処置を実施	石表面が乾燥と結露を繰り返している恐れがある	乾燥と結露を繰り返すと、劣化が進む可能性あり	予備的環境調査を実施し、専門家の指導のもとに対策を検討
54	ランドヤ古墳(1号墳)	有	カビ等の発生石等が結露し、剥落した痕跡が見られた	カビを除去後、環境調査の上、乾燥状態にする処置	保存施設を整備予定するが、経過観察等が必要		保存施設整備の実施
55	ランドヤ古墳(2号墳)	有	装飾部分の石等が結露した	自然科学専門家の指導を受け、環境調査を実施中	石表面が乾燥と結露を繰り返している恐れがある	石室上部に生えている木の根による石室への影響	木を除去した後1号墳同様の整備を実施する
56	鬼ノ岩屋古墳(1号墳)	有	内部にカビが発生した	専門家に対応を相談、指導に従ってカビを除去	石室内の石材に亀裂が走っているところがある	コウモリの糞によるカビの発生等が心配されている	コウモリへの対策、墳丘の崩落防止のための整備を実施
57	鬼ノ岩屋古墳(2号墳)	有	内部にカビが発生した	専門家に対応を相談、指導に従ってカビを除去	雨水が流入し、石室壁部の石材が床に落ちている	雨水による装飾の薄れやカビの発生など	墳丘の盛土を保護する整備等による対策
58	弁慶ヶ穴古墳	有	乾燥が激しい	公開を中止し、1年間にわたって市が温湿度計測を実施		保存施設の老朽化によって温湿度の変化が大きくなる	墳丘封土の調査と再盛土、保存施設の強度調査 過去に、市が環境調査を行った(H4 県がレプリカを作成) 亀裂の進行及び崩落の防止対策を検討 H4 県が27号墓のレプリカを作成
59	鍋田横穴	有	過去に、装飾部分に亀裂が入った	亀裂の進行防止のため、コンクリートを敷設	コンクリートのアクが析出し、27号墓の装飾部分が白く汚れている	亀裂が入り、それが進行して崩落する	亀裂の進行及び崩落の防止対策を検討 H4 県が27号墓のレプリカを作成
60	チブサン・オブサン古墳(チブサン古墳)	無	過去に、カビが発生した	S50 カビ処理を実施	市独自の年間を通した温湿度のデータを収集していない	保存施設の老朽化	保存施設の強度調査(H23～ 県立装飾古墳館が環境調査実施)
61	大村横穴群	有	未整備の岩盤の崩落	立ち入り規制や保存修理工事を実施	未整備の箇所にて近年岩盤の崩落が認められる	除草作業など日常管理業務が困難	管理業務に対する補助事業の充実(H4 県が11号墓のレプリカ作成)
62	江田船山古墳 附 塚坊主古墳・虚空蔵塚古墳(塚坊主古墳)	無	過去に、石室内にカビが発生した	速やかにカビ処理を実施			H20～ 県立装飾古墳館が環境調査実施
63	石貫ナギノ横穴群	有	崖面が崩落装飾がコケに覆われている部分がある		覆屋等を施していないため風雨に曝される		公有化を進め保護設備を整える
64	石貫穴観音横穴	有	装飾の彩色部分が地衣類に覆われている	着生植物の除去	覆屋等を施していないため風雨に曝される		覆屋等の保護設備を施す
65	大坊古墳	有	過去に、石室内にカビが発生した	状況を観察していたところ、自然消滅	保存施設(昭和53年設置)の経年劣化		将来的な保存施設の改修(市・県立装飾古墳館が環境調査実施)
66	永安寺東古墳・永安寺西古墳(永安寺東古墳)	無			保存整備後は古墳本体に大きな変化は見られない	将来には、ゲリラ豪雨による保存施設の経年変化	定期的なメンテナンスが必要(市・県立装飾古墳館が環境調査実施)
67	永安寺東古墳・永安寺西古墳(永安寺西古墳)	有	近年の豪雨により、古墳本体を覆う保存施設に亀裂が入った	応急処置と防水シートの敷設災害復旧工事を実施	保存整備後は古墳本体に大きな変化は見られない	近年のゲリラ豪雨等による保存施設・天井部の老朽化	定期的なメンテナンスが必要(市・県立装飾古墳館が環境調査実施)
68	釜尾古墳	無			目視による退色の恐れがあり、公開を停止及び温湿度のモニタリング	天井部の結露が激しい	コンクリート天井の状況確認及びその他対策の検討を行う H20～ 県立装飾古墳館が環境調査実施
69	千金甲古墳(乙号)	無			目視による退色の恐れがあり、開口部をふさぎ、覆屋をかけた	年間を通した温湿度のデータがない	現状の確認及び温湿度計測、定期点検の必要あり
70	千金甲古墳(甲号)	無			公開の中止温湿度変化の観測(H10～11 写真撮影時、異常なしを確認)		墳丘盛土の流出と、石室内内部でのカビの発生 鉄扉にある腐食した隙間をふさぐ H23～ 県立装飾古墳館が環境調査実施
71	塚原古墳群(石之室古墳)	無					
72	井寺古墳	有	安政大地震による石室の傾斜、奥石障にカビなどが発生	県立装飾古墳館による温湿度等のモニタリングを実施	石室入口の扉の密閉性に問題がある	左記の密閉性の影響を慎重に判断する必要がある	環境維持のために密閉性を高める方策を考慮する必要がある H21～ 県立装飾古墳館が環境調査実施
73	小田良古墳	無	海拔7m、島原大肥後迷惑の際、津波により墳丘の流失	昭和54以降 埋戻し後、覆屋設置			保存管理を確立した上で、装飾を公開する形で保存整備を行う 今後、被災した文化財の整備の在り方も検討(H3 県がレプリカ作成)